

「ガウガウ♡ ようやくコドモたちも小さいけど、独り立ちできるようになった♪」

「ガウとオマエの群れ、もうと多い方がいいけど、一回に産める数、少ない…だから、いっぱい交尾して子作りするぞ♡」

「ハツ、ハツ、ハツ…♡ ガウはオマエとのコドモもつと欲しい、たくさんだとオマエも嬉しい?♡」「わうわう！♡ ああ、そうだ♡」

「元々、オマエの仲間だった、冒險者たちも、全員ちゃんと同じになつたゾ♪」

「オマエと同じように、子供を産んだり種付け棒として孕ませたり。みんなナカマだ♡」

「まあ、ガウはどうちでもいい♡ そんなコトより、オマエとのコドモ、もうと増やしたい♡ わおおん！ ハツ、ハツ、ハツ…♡」

「オマエは全部ガウのモノだからな♡ これからも大事にして、いっぱい交尾するだけ♡ すんすん…ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ オマエの体もガウと交尾したがってる♡ 発情の匂いスゴイぞ♡」「オマエの体、コドモ産んでから変わったところもあるの、ガウも気づいてる。コドモ大きくするためには、お乳、出るようになつた。コドモたちの分だ、でもオマエはガウのモノだよな?♡」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ だったら、そのお乳も、ガウのモノ、違う?♡」

「わうわう♡ オマエのお乳、ガウも貰う♡ いっぱいペロペロして、チユウチユウして…吸い出してやるぞ♡ んつちゅつ♡ ちゅるちゅつ、ちゅつ、ちゅうつ、ちゅつ…んう♡ ちゅうつ、ちゅつ…んう♡ ハツ、ハツ、ハツ、ハツ♡ ちゅるべ、ちゅうちゅう、んう、んんうウ♡」「ちゅつ…、じゅるじゅる、んうつ♡ ちゅうちゅう、ちゅぱりゅつ、んちゅ、んちゅ、んちゅつ。ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ お乳、出できたぞ♡ 濃くて、あまい♡ やさしい味♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡」

「アツ♡」

「ガウのチンポもギンギンになつてきたぞ♡ オマエとのケツまんにいっぱい出したくてたまんないぞ♡ ちゅうつ、ちゅうつ、ハア、ハア♡ ちゅくつ、じくつ、じくつ、んう♡ 少しずつお乳、出てきてるけど、止まらないな♡ 今だけは、ガウのモノ、だぞ♡」

「ちゅるべ、ちゅぱつ、ちゅるる、んう♡ ちゅむちゅむつ、むちゅるうつ、ぬちゅつ、ちゅぱつ、ちゅぱつ。くちゅるべ、んう♡ んつ♡ んんう♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡」

「発情してる匂い、どんどん濃くなつてきてるぞ♡ お乳、出して、乳首攻められて、気持ちよくなつてると♡」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡」

「オマエのチンポも勃起してる♡ チンポももう、濡れてきてるな♡ わうわう！♡ コドモたちもオマエのお乳の匂いに釣られて寄つてきたぞ♡」

でも、今はかウのモノだから、そこで見てろ。♥ 後でちゃんとコドモたちにもお乳、あげる。」

卷之三

「オーバーコート」

۱۵۷

ハリハリハリハリ

もう、大ヤンできないぞ、わざわざ！ カリカリ、かくふく、もとたくさんくれ
ゅつ、じゅううつ、んんつ、んぐつ、んじゆるつ、じゆるするじゅつ、んぎりゅつ、んんつ、「

「じゆりゅうへ、じゆりゅうへ、じゆりゅうへ、じゆりゅうへ、んぢ
んぢ、んぢへ、ぐぢへ、くぢへ、くぢへ、

ア、ハハ 別に隠すことでもない ロドモたちとも、ガウをあの交尾、見てるわよ

自分のドモに見られながら交尾するのスキ? 分からない? でもオエの体…

「力には力で返さないぞ。」
「君の穴はいはせーし出し

「一気に、全部飲み込まれたぞ。 ハツ ハツ ハツ ハツ ズボズボ、ズボズボ 動く

「これ正^{コトハ}
止まらないぞ^{コトハ} んつぐつ^{コトハ}
おつ、おウ^{コトハ} おおん^{コトハ} おつ、おおん^{コトハ} ハツ、ハツ、ハツ、

ん、んう
ん、んう
ああ
メヌ穴、スゴいぞ
ん、んう
ん、んう

あ、あう、あオ
お、おおう、おオん！

—オマエをずっと発情してたな? チンホの先から汁がトロトロ垂れてたぞ。【心】

「せーし、出る前の、んつぐウ♥ 透明で、ネバネバなチンポ汁♥ んつ、んうつ♥」

「うーん、どうも、おまかせでいいやつだな。」

「さつきまで、オマエのお乳狙つてたのに…♡今は違う♡発情してるオマエ見てガウと同じように

「アラカルト」

「オマエが気持ちよくなつてるとこで、コドモたちに全部、見せる♥ あつ、あオ♥ わおわおん!♥ おつ、おウ♥ おつぐつ、うつぐウ♥ うウ♥ うウン♥ んつ、んオ♥ おつ、おつ、おおおつ、おつぐつ♥」

「ハツ、ハツ、ハツ、ハツ
♥ ハツ ♥ ハツ ♥ ハツ ♥」

「ケツまんこエイ♥ ガウのチンポ♥ 根本の方、キユウキユウ締め付けてる♥ ん、おオ♥ スボ
ズボ、奥まで突っ込んでえ♥ 引き抜くと♪♥ んつぐウ♥ ふたなりチンポ、根本から一気にシゴ
かれるのう♥ 気持ちいつ♥ これつ♥ スゴい、スキッ♥ スキい♥ んちぐウ♥ オマエのメス穴♥ ガ
ウ専用♥」

「食いたい」
つてる♥ ハツ♥ ハツ♥ ハツ♥ ああつ♥ もうつ、出すつ♥ セーしつ♥ ケツまんこの奥う♥
出すぞ♥」

「あオん！ 種付してるとこで、コドモたちに全部見せるわ オマエもせーし、出そう、だろ？」
ガウがシコシコして、手伝つてやる アハア

「熱くて♥ 硬くて♥ ビケビクするの、止まらないな♥ シコシコしたら♥ すぐせーし出るぞ♥
あウ♥ あオん♥ ハツ、ハツ、ハツ♥ あつ♥ ああつ♥ メス穴の締め付け、一気に強くなつた！♥」
「気持ちい、止まんない？ オマエもせーし、出そう？ ガマンするな♥ ハツ♥ ハツ♥ ハツ♥ ガウ
もせーし出すから♥ オマエも出せ♥ せーし、出せ♥ いっぱい、ぶちまけてると♪♥ コドモた
ちに見せろ♥」

「あウ♡ あオん！♡ もう、出る♡ ガウ、せーし出すぞ♡ おつ、おウ！♡ おオー！♡ おオん

「はあっ、はあっ、はあっ、んんウ！ あア 気持ちい 気持ちい、止まらない あつ あぐつ
あオン！」

「んぐウ ♪ うつ、ううウ ♪ あおオン♪ ハツ ♪ ハツ ♪ ハツ ♪ ハツ ♪ メス穴♪ スゴい、動いてるぞ
ガウのせーし、全部絞り出して ♪ 飲み込もうとしてる ♪ ハツ ♪ ハツ ♪ ハツ ♪ ガウ、これ、
スキい♪」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ オマエのせーしも、濃くて美味しいぞ♡ アハア♡ おい、コドモたちを見て
みろ♡ すつゞく発情してるぞ♡」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ガウたちの交尾見て、自分たちもチンポ、シゴきたくなつたみたいだ♡ 初
めてだと、上手くできないかもしない♡ だから、オマエが口で、せーし出させてあげるといい♡」「
「そうだ♡ それがイイ♡ ガウはこのまま、オマエのメス穴にもつとせーし出すから♡」

「オマエは、ガウとコドモたちの相手、両方してあげるといい♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ 大丈夫♡ オ
マエ、ガウとの交尾で口もチンポも、ガウのこと受け入れてた♪ コドモたちの相手なら、余裕♡」
「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡」

「がうがう♡ ガウは一回じやおさまらないからな♡ もつとオマエのメス穴にせーし出す♡ いい
な?♡」

「あオオん!♡」

「ほら、コドモたちの相手もしてやれ♡ ビンビンになつて、コドモのふたなりチンポ咥えてやると
いい♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ アハ♡ 口は一個しかないからな♡ オマエのお乳、吸わせてやれ♡」「
「んオ♡ おオ…♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ さつきより、メス穴の動きがキツくなつたぞ♡ んんウ♡」「
「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ キツくて、気持ちい♡ コドモの相手して、オマエ、もつと発情した?♡」「
「あウん♡ 乳首、ちゅうちゅうされて、んんつ♡ コドモふたりチンポ、口でじゅぼじゅぼして、
気持ちよくなつてる?♡ わうわう!♡ いいぞ♡ ガウも、もつと、突いてやる♡ あオオん!♡」「
「オマエの気持ちよくなれると、ガウ全部知ってるからな♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ 突いて、突
いて、突きまくつて♡ また」ドモ産ませる♡ ガウたちの群れ、もつとたくさん増やす♡」「
「んんウ♡ あつ♡ あウ♡ おつ、おお♡ おオん♡ おつぐウ♡ うウ♡ うつ♡ うオ♡ おおオ
ん!♡ ハツ♡ ハツ♡」
♡ チンポもう復活した♡」

「がうがう♡ ズボズボするたび、さつき出したせーし、泡になつて出てきてるぞ♡」

「もう入らない?♡ そんなワケない♡ ケツまんの中、もつともつと、ガウのせーしでパンパンに
する♡ あオ♡ おオ♡ おオん!♡ おつくウ♡ うウ♡ うウん!♡ あつ、あつ、あつ、あつ
あオオん!♡」

「おオ?♡ 口の中にせーし出された?♡ ハツ♡ ハツ♡ 初めて出したせーし、オマエ飲めてよかつ
たな♡ ちゅぱつ♡ ん、んつ♡ コドモ達のせーしもきちんと濃いゾ。さすがガウ達のコドモだ♡
すぐにでもメスを孕ませられそうだナ♡」

「わうう♡ コドモのせーし飲んで、さらに敏感になつた?♡ いっぱい感じて、いっぱい発情してると
ころ、ガウに見せろ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ アハア…♡ せーし、初めて出して、気持ちよく
て顔がトロけてる?…ん? ああ♡」

「ほら、まだせーし出せてない子も、相手してやれ♡ オマエもせーし、欲しいだろ?♡」

「わうわう♡ メス穴にはガウがちゃんと注いでやる♡ 溢れても、止めないから安心しろ♡ あウ
♡ わオおん！♡ んつ、んんウ♡ あつ、あウ♡ おつ、おオん♡ おつぐウ！♡ ハツ♡ ハツ♡ ハテ
ツ♡ ハツ♡」

「オマエの体、ビクビク跳ねてる♡ 気持ちいいのスゴい？♡ メス穴ジュボジュボされるの、スキ？♡
アハア♡ 発情の匂い濃すぎて、コドモたちクラクラしてるぞ♡ ガウも、もうせーし出そう♡」
「オマエの体、美味しいすぎて♡ ガウたちおかしくなってるぞ♡ ガマンしない♡ 全部、出す♡ オ
マエに出してやる♡ 孕みヨメになつて、ガウのツガイのオマエ、今幸せ♡ 見てれば分かる♡ 交尾
ずっとしてたいだろ？♡」

「体の疼き、止められるのガウだけだからな♡ これからも大事にする♡ いつぱい、コドモ作つて、
んウ♡」

「ガウたちで強い群れ、作るぞ♡ んつ、んぐウ♡ んオ♡ おつ、おつ、おおオ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ
ツ♡ あオオん！♡」

「もう、ダメ♡ ガウ、せーし、出る♡ 発情しまくったメス穴に、全部、出す♡ ふたなりチンポ、
上手に搾り取るオマエのケツまんこに、一滴残らず出す♡ あウ♡ あオ♡ あおオん！…♡」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツめ♡ 孕め♡ 孕め♡ うつぐウ♡」
「おオ♡ おオオオオおおおおおおおんんツツツ！…♡ ♪ ♪ ♪」

「ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ…♡」

「オマエ、メス穴も♡ 体もガウたちのせーしでドロドロ、だぞ♡ わうわう♡ コドモたちのせーし
も全部オマエの口の中♡ たくさん、発情、した？♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡」

「ガウとの交尾♡ オマエ幸せ♡ それだけでいい♡ オマエ、ガウのツガイだからな♡ これから、
もつと交尾して、たくさんコドモ産む♡ 祝福されて、孕みヨメになつた『ンゲンの一一番の幸せ♡』

「わうわう♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ ハツ♡ わう♡ もつと交尾♡ 交尾♡ ガウつ、祝福して♡ 孕ませ
て♡ ふたりなりちんぽで気持ちよくなつて、家族増やすゾ♡ あおおんうつ♡ ♪ ♪ ♪」